

# 盲ろう者団体 宿泊拒否

## 岡山の旅館 事故免責「一筆を」

市が2度指導

岡山県の盲ろう者らでつくる団体が昨年11月、岡山市栢谷の温泉旅館「苦田温泉 乃利武」に約200人の宿泊を申し込んだところ、「設備が不十分で、障害者の方には使いにくい」などとして拒否されていたことが分かった。旅館は岡山市の指導を受け、宿泊受け入れの意向を示したが、条件として事故時の責任を問わないことを約束する文書を団体側に求めている。

この団体は岡山盲ろう者友の会（武南俊一会長）。同会や、予約手続きをした大手旅行会社によると、昨年11月16日、毎年、中国・四国の各県で持ち回りで開いている「中四国盲ろう者大会」の会場として、旅行会社の代理店を通じて1年後の予約を申し込んだ。だが、旅館側は「施設内」に段差が多く、非常時の誘導などの対応ができない」などとして断った。

同会はその後3回、旅行会社を通じて、盲ろう者1人に介助者2、3人や盲導犬がつくことなどを説明したが、盲ろう者自身による下見も含め、拒否されたという。今年1月15日、同会の相談を受けた岡山市が旅館に立ち入り指導をし、「設備が不十分として宿泊を断るのは、正当な理由にはならない」と指摘。旅館側は翌16日に市に出向き、「全員が盲ろう者」と思っていた」とし、宿泊受け入れを伝えた。だが、同会が方針転換の理由を文書で回答するよう求めたところ、旅館側は1月30日付で、施設の構造が「目の不自由なお方には、ふさわしくない」としたうえで、「万

が一不慮の事故、負傷者が発生した場合、当館は一切責任を担いませんので、一筆いただいた上でのご利用を」と求めてきたという。同会から文書の内容を知らされた市は再度、立ち入り指導をし、一筆を強制すると旅館業法違反になると伝えられた。同会は2月初め、旅館に「『障害者だから』という理由で宿泊を断り、下見さえも断られたことは理解に苦しみます」「私たちにそれ（文書）を要求すると、人権感覚が問われることになる」とする武南会長名の文書を送り、抗議した。乃利武の則武章二社長は「増築を重ねたため、階段や段差がかなりあってお客様の安全を第一に考えてお断りし、『一筆』をお願いした。差別とは思わない。障害者にはふさわしい施設ではなく、断る方が親切だと思う」と話している。

あつた熊本県でのハンセン病元患者への宿泊拒否問題と、根底にあるものは同じだ。人権という考え方が広がった一方で、命の尊厳への無感覚が根を張ってきている。そういう時代を象徴する出来事といえる。ただ、旅館の責任を追究するだけでは解決にならない。私たちが自身の問題、社会全体をかんげなければならぬ。

大阪と堺の... 原因は... 送電線... 大阪市と... 前に起きた... 帯の停電は、

## 「市民団体が不祥事を探している」

# 米兵外出に注意文書

福岡防衛施設局 米軍と共同作成

大分県の陸上自衛隊日出生台演習場で沖縄の米海兵隊が実弾砲撃演習を行った際、米軍と福岡防衛施設局が、演習後に街に繰り出す米兵に注意を促す「ガイド」を作成していたことが分かった。演習に反対する市民団体名を示して「海兵隊のステラ2月3日まで行われ、

では複数の女性がサービステキスしてくるが、ほとんどが高い「マッサージ」店なども高い値段を要求されることがあるので立

とるよう望む... 福岡防衛... 官は「前回... 習の際、習慣... 飲食店でトラ... た。無用のト... けるために作... し、取材拒否... に関する注意... は、「米軍の... 加えた」と話... 文書で名指